

令和2年度群馬県地域おこし協力隊情報交換会 開催概要

1 日 時 令和2年8月5日(水) 13時30分～16時45分

2 場 所 群馬県市町村会館 大研修室・502研修室

3 出席者(計72名)

(1) 地域おこし協力隊員・隊員OBOG(16市町村45名)

前橋市(3名)、桐生市(4名)、沼田市(2名)、渋川市(4名)
みどり市(7名)、上野村(2名)、下仁田町(3名)、南牧村(3名)
中之条町(2名)、嬭恋村(2名)、高山村(3名)、東吾妻町(2名)
片品村(1名)、川場村(1名)、昭和村(1名)、みなかみ町(5名)

(2) 市町村職員(13市町村13名)各市町村1名のみ

前橋市、桐生市、沼田市、渋川市、安中市、みどり市、上野村、嬭恋村
高山村、東吾妻町、片品村、昭和村、みなかみ町

(3) その他

群馬県産業支援機構(1名)

(4) 県職員

7行政県税事務所7名

渋川、藤岡、吾妻、利根沼田、桐生、館林、太田

経営支援課(1名)

地域創生課(5名)

4 内 容

(1) 県地域創生課からの情報提供

(2) 県内隊員の活動紹介

・嬭恋村地域おこし協力隊 奥田 愛美 隊員

・沼田市地域おこし協力隊 高橋 枝里 隊員

(3) ワークショップ

テーマ:「地域おこし協力隊・行政・地域住民のつながり」

講師: NPO法人武尊根BASE 理事長 小石 俊一 氏

意見交換会

・地域おこし協力隊(OBOG含む) 会場: 大研修室

・市町村職員・県職員 会場: 502研修室

発表者: みどり市東市民生活課 町田 亮 氏

みなかみ町総合戦略課 中山 文弥 氏

1. 開会

2. 挨拶（課長）



本日は、県内各地から多くの地域おこし協力隊員や市町村担当者にお集まりいただき、感謝申し上げます。

県内では4月1日現在、23市町村で95名の隊員が様々な分野で活動している。また、任期終了となった122名のうち、68名が引き続き県内に定住しており、定住率は約55%となっている。これは、国の62%を少し下回る結果である。

この情報交換会は、県内で活躍する地域おこし協力隊員の情報共有の機会を設け、隊員同士の交流を図り、県内全域でのつながりを作ることを目的としている。

本日は、最初に隊員、隊員OB・OGの皆様からの自己紹介、その後、婦恋村の奥田隊員、沼田市の高橋隊員に活動紹介を行っていただく。

また、NPO 法人武尊根ベース 理事長の小石俊一さんを講師にお招きし、「地域おこし協力隊・行政・地域住民の繋がり」をテーマとしてお話を伺い、意見交換形式のワークショップを行う。ぜひ、皆さんの「想い」を伝えてほしい。

その後、隊員と行政職員に分かれて意見交換会を予定している。行政職員の意見交換会では、みなかみ町の中山さん、みどり市の町田さんに、協力隊業務の取組について発表いただく。

例年はその後、懇親会を行っていたが、今回は新型コロナの影響により中止とさせていただいた。

本日は、日頃接する機会が少ない隊員同士が、一堂に会する貴重な機会である。地域おこし協力隊員としての繋がりを密にさせていただき、今後の活動が更に活性化することを期待している。

1. 県からの情報提供



次の内容について、資料に基づき説明。

- ① 「県内の地域おこし協力隊の状況及び県の地域おこし協力隊に関する事業について」（地域創生課・深澤主任）

②「群馬県の創業支援について」（経営支援課・戸部主任）

③「創業支援センターの紹介」（群馬県産業支援センター・田沼マネージャー）

4. 自己紹介

地域おこし協力隊員・隊員OBが自己紹介を行った。



2. 隊員の活動紹介

○嬭恋村地域おこし協力隊 奥田愛美 隊員



○沼田市地域おこし協力隊 高橋枝里 隊員



◎質疑応答

①南牧村地域おこし協力隊 佐藤祐太さん

質問：（奥田さんへ）嬭恋村は、イベントなど新たな取り組みが多いように思う。南

牧村は、昔からの行事はあるが、新しいことが生まれてこない。新しいことが始められるのには、何か理由があるのか。

回答：嬭恋村では、行政以外の観光協会、地域住民主体の組織、民間企業がイベントを企画しているため。観光事業のポテンシャルが高いのを売りにしている。

②地域創生課 井坂

質問：（高橋さんへ）コロナ禍の新たな取り組みとして新商品を開発されたが、この後の展開として考えている構想があれば、教えて欲しい。

回答：現品の室内用下駄のはな部分をオリジナルデザインにする予定。

●（飛び込みで）協力隊OB・小池さんによる活動PR

下仁田町 NPO 法人エコライフを継承して、群馬 LVc に名称を変更し、地域で活動している一方で、群馬県での地域おこし協力隊ネットワークづくりの組織化を考えている。実際に組織化している佐賀、島根、岡山、兵庫、秋田では、OBOG が現役隊員をサポートしたり、交流を県域的に行っている。

現在、私一人だけでするので今年度に退任される方は、是非お声がけいただきたい。



6. ワークショップ

○テーマ：「地域おこし協力隊、行政、地域住民のつながり」

○講師：NPO法人 武尊根BASE 理事長 小石俊一氏)

片品村とのお縁のはじまりは、ペンションの経営。春～秋にかけてはサッカーを中心としたお客さん、冬はスキー・スノボのお客さんを中心に受け入れている。花咲の地域では、元々ペンション協会がサッカーを中心に小学生に呼び込んでいた。しかし、高齢化とともに段々とニーズに答えられなくなっていき、金銭的にも挑戦ができなくなっていた。グラウンドもクレーのコートではなく、施設も天然、人工芝に変えたいができない。そういう事からアルモンテを立ち上げてグラウンドを整備していった。

元々自分のペンションでお客さんを受け合宿中心のスタイルから、イベントの誘致をメインにしていった。そうすると、大会に来るチームが近隣の宿泊を使うから結果的に地域にお客さんと呼べるようになる。そうして暮らすこと約30年。若い頃にお世話になった世代の老いを感じた。農作業を一人でやっている姿を見て「なんとかならないかな」、今まで生活させてもらってきたこの村で抱えている人口減少や少子高齢化、耕作放棄地といった課題を自分が火種となって何かが変わればという気持ちになってきた。個人的な思いとしても楽しくないことが一番嫌いなので、常に楽しく、わくわくするようなものを地域に仕掛けていきたい。片品村って良いなと思ってもらいたい。そういうことをして行くことで同じ考えを持つ人との出会いが生まれる。自分自身も楽しみながら、新たな事業や村内外の人たちとの交流を生み出していきたい。

2014年に「片品地域未来振興協議会」を設立。農水省の農泊事業、農地改良を活用して地元住民と協働的な地域活性化を図る。耕作放棄地を利用してワイルドグラスガーデン



を作りハーブの栽培を行った。また、地元の婦人方の協力を得て、地元食材を使ってメニュー作りにも取り組む。

2016年には、解体が予定されていた旧武尊根小学校を活用した事業を始めるにあたり、行政との管理委託契約のため NPO 法人化に踏み出した。校舎では「森のさんさん幼稚園」をはじめ。現在、園児は9人いる。教育方針として、自分が家庭を持った経験から家族のかたち、親子のかたちを描き、園児には幼少期から自然を通していろんなことを肌身で感じ、経験してほしいという想いをもっている。

もう一つの事業が校舎、校庭を活用したキャンプ場。お客さんの反応は良くて、キャンプをきっかけに幼稚園があることを知ってもらい、ここで子供を預けてみたい、家族で移住をしたいと思ってもらえるきっかけづくりやキャンプにきた人が運営に携わりたい人がいたら良いなと思いながら事業を行っている。

自分のやりたいことを実行していく中で、全部私が思うように動いてほしいわけではない。こうしたいというビジョンはある程度イメージしているが、その過程は自由にして欲しい。だから思ったことはどんどんやってもらいたい。

私も地域おこし協力の4名と仕事していた。武尊根 BASE で起業に向け取り組んでいて、私からは「やりたいことを追求して欲しい」と二人にアドバイスしていた。

7-1. 意見交換会（隊員、隊員OB対象）

小石さんの講演に沿って各グループで振り返りを含めて、自己紹介や活動紹介をしてもらい、情報共有を図り、全体に向けて発表を行う。

A：個々の活動内容を共有した中でこけし×トロッコのコラボ企画を発案。

B：小石さんの事業に取り組む姿勢が大変参考になった。

C：森のさんさん幼稚園の話が参考になった。活動に活かしたい。

D：起業を目的として大変参考になった。

E：コロナ禍での活動報告を行い情報共有でき勉強になった。

F：地域住民との信頼関係づくりが大切だと痛感した。

G：自分のやりたいことをする信念を持ち続けたい

H：小石さんと活発な意見交換ができ勉強になった。

I：自己紹介後、コロナ禍での活動状況が聞けて参考になった。

J：自己紹介、活動紹介を行った。

K：自己紹介、活動照会、地域への思いを共有した。

L：小石さんの事業に取り組む姿勢、地域づくり施策が参考になった。



7-2. 意見交換会（市町村・行政県税事務所担当者対象）

○事例発表1 みどり市東市民生活課 町田亮氏

- ・別添資料をもとに、みどり市における地域おこし協力隊の導入・活動支援と課題解決について発表。



○事例発表2 みなかみ町総合戦略課 中山文弥氏

- ・別添資料をもとに、みなかみ町の地域おこし協力隊の現状と、ふるさとテレワーク事業の推進について発表。



・質疑応答3件：船引地域創生課長 → みなかみ町 中山さん

質問①：町のイベントでは、どのような人を対象に行ったのか。

回答：地域住民を含め、ローカルベンチャー推進事業を通じて町に関わりを持った地方に関心がある方々をターゲットにした。

質問②：コロナ渦で地方でのテレワークが注目されている中、今後どのような施策を考えているか。

回答：都心部から町までは新幹線で1時間ほどで行けるので、交通面でテレワークセンターが利用しやすい環境である。今後も利用者の募集、情報発信を行う予定。

質問③：テレワークセンター利用者の寝泊まりはどうしているのか。

回答：センター近隣のアパートなどを借りて生活を送っている。自家用車や運転免許を持っていない方への対策を検討する必要がある。

8. 閉会